

旭川の体育

旭川市立東栄小学校 教諭 森 優也

○旭川支部の研究主題と視点について

旭川支部では、令和5年度より「自ら求め、豊かにかかわる体育活動～共生の視点を大切に～」を新たに支部の研究主題とした。また、学習指導要領改訂のポイントにある「年齢や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無にかかわらず運動やスポーツの多様な楽しみ方が共有できる」ことや、全道統一主題の「学級集団に存在する『多様性』が資質・能力の高まりを促進する」ことを目指すために副題に「共生」という言葉を取り入れた。

今年度、10月の研究大会に向けた準備で、「①目標や課題の適正化」だと言葉が抽象的であるという議論が起こった。そこで、「学習内容の明確化」と変更した。これで、単位時間や単元で目指す子どもの姿をより具体的に考えることができる。目指す子ども像が具体化すれば、そこにいたる手段もより洗練化されると期待される。

旭川支部 研究主題 「自ら求め、豊かにかかわる体育活動」～共生の視点を大切に～

【研究仮説】

教材の工夫や協働的に課題を解決する環境の設定、教師の関わりにより、児童・生徒は自ら目標に向かい、進んで運動に親しんでいく。課題解決を通して、一人一人の違いを大切に、多様性を尊重する態度を育むことができる。児童・生徒同士の良好なつながりが次の学習への意欲を生み出し、学びが繰り返され深められていく。

研究の視点1～指導内容の工夫	研究の視点2～関わりの工夫
① 目標や課題の適正化 変更 学習内容の明確化 ② 個に応じた課題探究を促す教材設定 ③ 多様な関わり方を盛り込んだ指導計画の作成	① 子供と運動との関わり ② 子供同士の関わり ③ 教師と子供との関わり

□「共生」とは

体力や技能の程度、性別や障害の有無、個々の取組や思い等にかかわらず運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有すること。また、個々の能力を最大限に生かして学び合えるよう、仲間と考えを伝え合って自己の考えを深めようとしたり、互いの取組を認めて良好な関係を築こうとしたりすることと押さえる。5年度の研究授業や討議を踏まえ、共生の視点をもつために、より具体的な言葉として、他者の立場に立つことを意識していく。子どもたちがそれぞれの単元冒頭の姿をスタートラインとして、個々の伸びを実感し合えるようにしていくことが期待される。

○令和6年度の旭川支部研究大会に向けて

- 期 日 令和6年10月8日(火)
- 研究授業 旭川市立東栄小学校 前川 裕太郎 教諭 第5学年 ゲーム【ゴール型】
旭川市立六合中学校 樽野 貴之 教諭 第3学年 ゲーム【バレーボール】

■指導案形式の変更

より効率的に授業構築ができるように、指導案形式を変更した。主な変更部分は、「単元末の目指す姿の具体化」「各単位時間の学習内容の明確化」「(単元の)指導と評価の計画の一覧性を高めたこと」である。

■小学校研究授業に向けた活動概要

子どもたちが技能の差によらず、力を合わせてボールを運ぶことを大きなねらいとした。その達成のため、単元前半を「ルールの工夫」、単元後半を「動き(作戦)の工夫」と単元のまとまりごとに取り組み内容を精選した。また、数的優位の局面を作るための攻撃ゾーンの設定を行うことで、ゴールに向かってボールを運ぶ楽しさを味わえるようにした。さらに、子どもたちが主体的に学びに向かえるように、単位時間の学ぶプロセスの共有、ビデオとそれを見る視点、振り返りの視点的例示を行うよう計画した。

■中学校研究授業の概要

チームでの攻撃パターンを自分たちで考えながら学習を進める「球技ネット型バレーボール」の授業に取り組んだ。授業クラスの学校の教育課程の都合上、2年ぶりのバレーボールの学習となり、授業者は単元前半で基本的な技能の習得に重きを置いた授業計画を作成するという生徒の実態に合わせた工夫を行った。単元後半では、各チームで攻撃パターンを選び、その選んだ攻撃に繋げるまでのディフェンス方法や自チームの課題を考えてゲームに取り組んだ。ウォーミングアップやパス練習などを一定化する中で、生徒自身で練習を進めていけるような学習の場の設定を行った。また、ゲームの際にはチーム内での役割分担を明示したり互いの声掛けの仕方などを示したりしながら関わりを増やす工夫を行った。